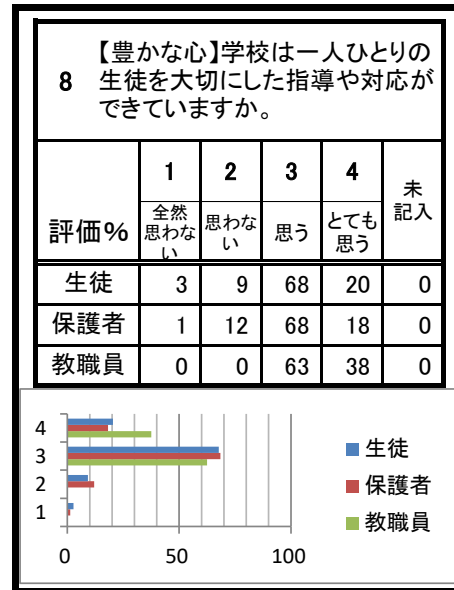
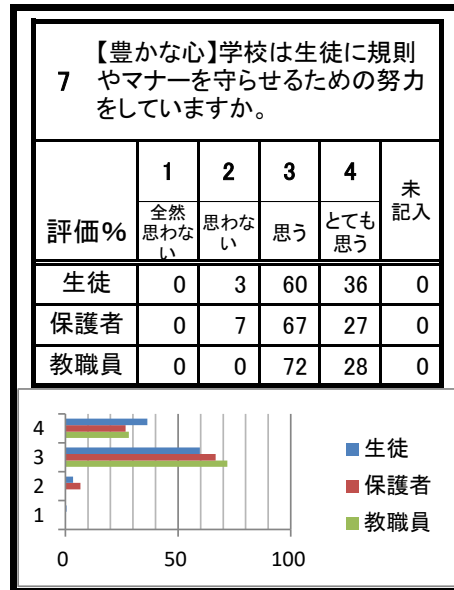
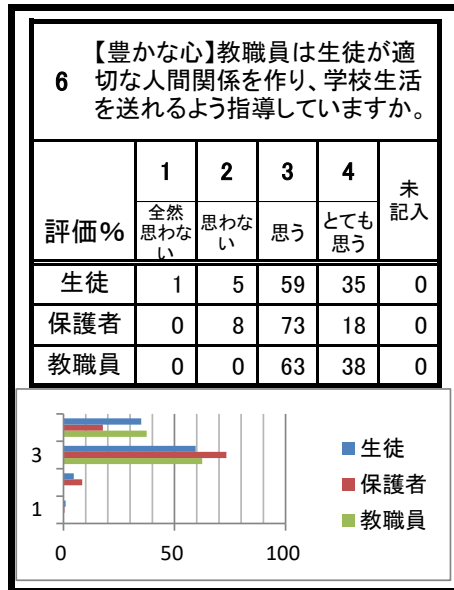
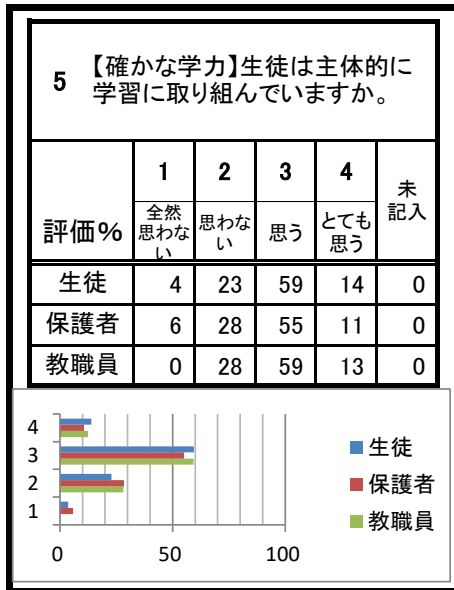
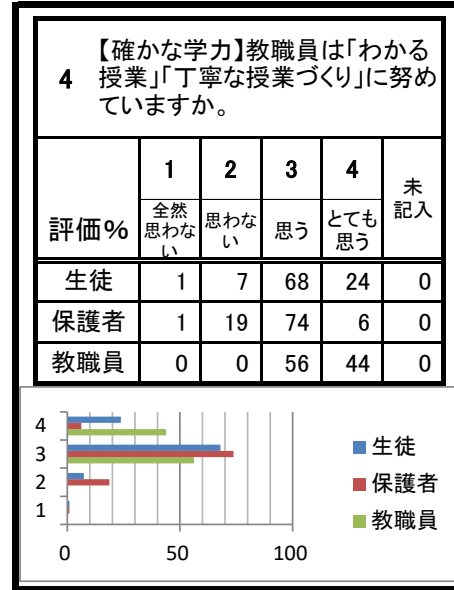
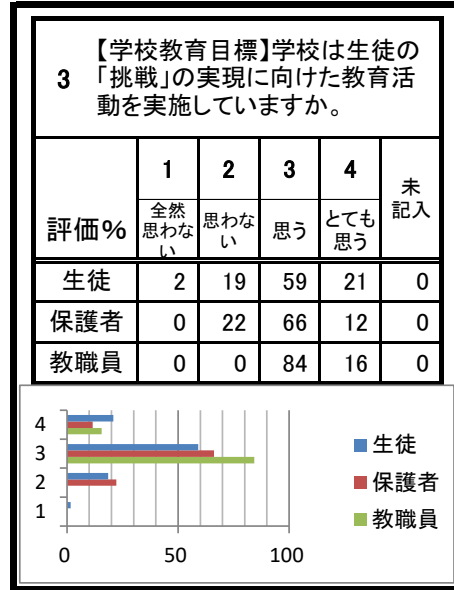
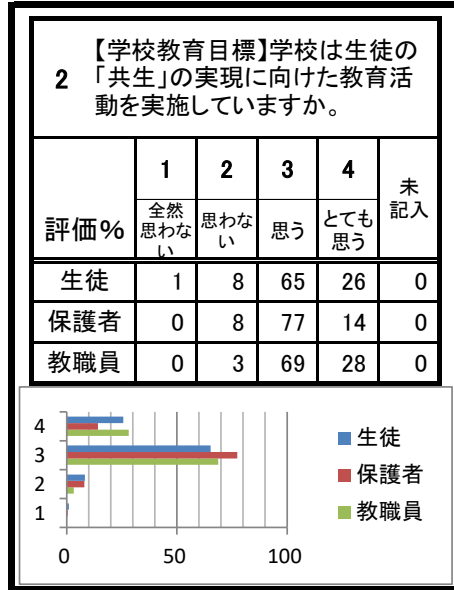
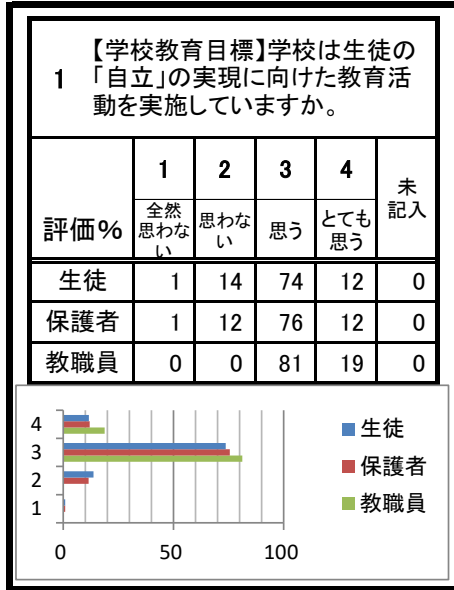


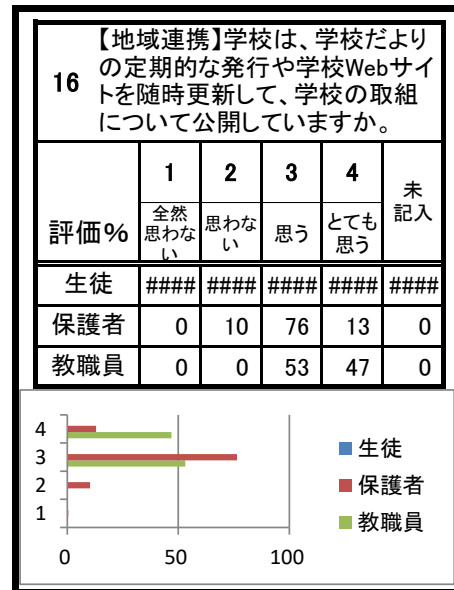
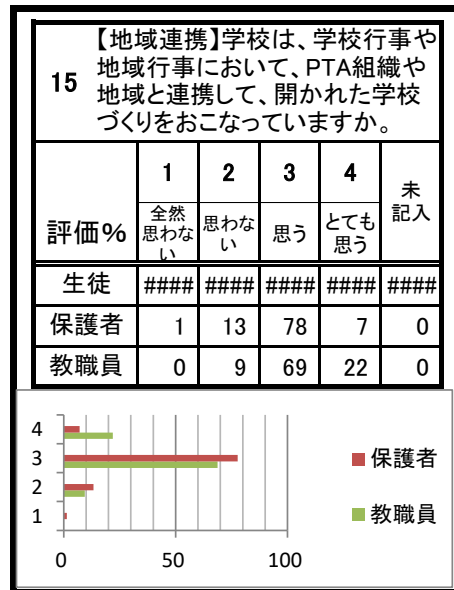
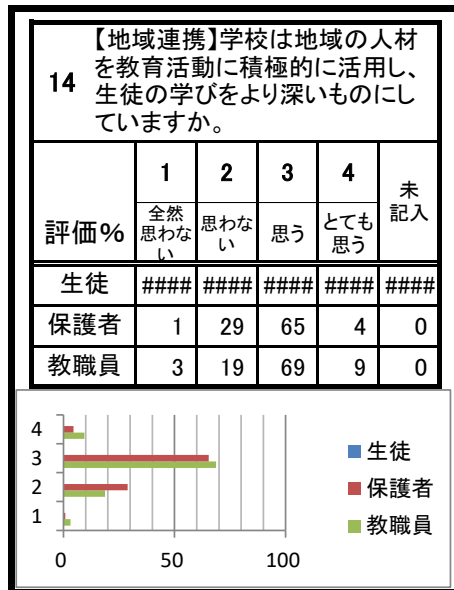
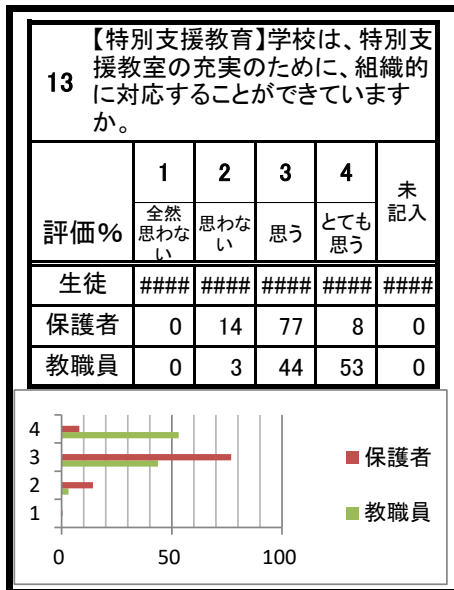
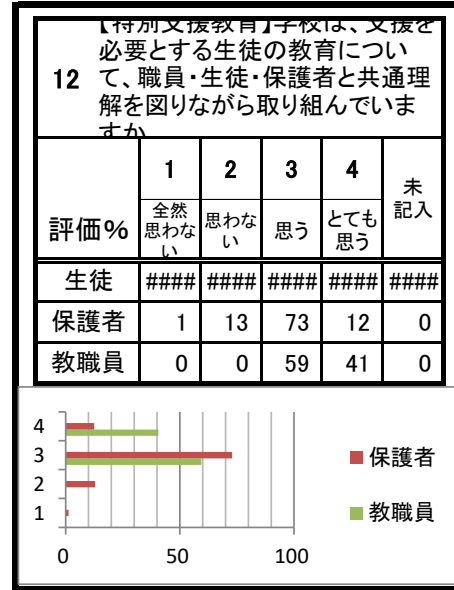
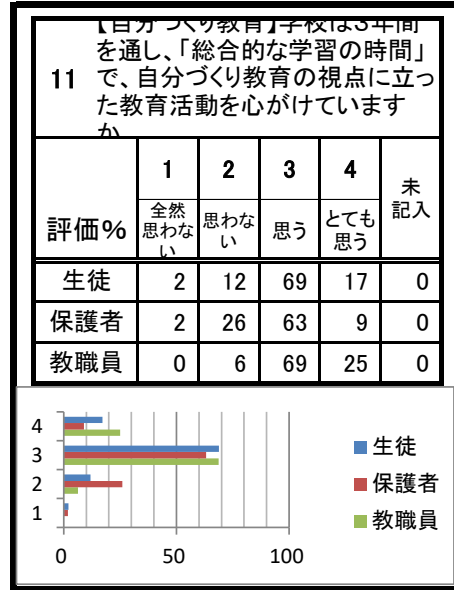
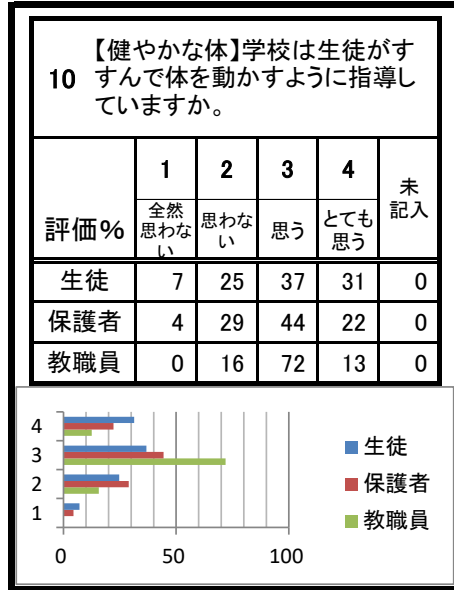
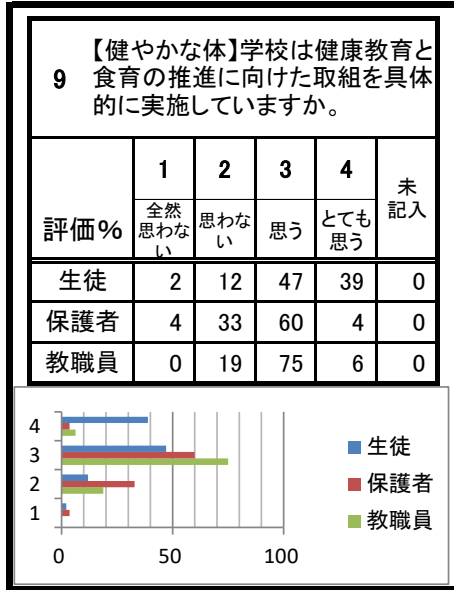
# 2021 学校評価分析まとめ

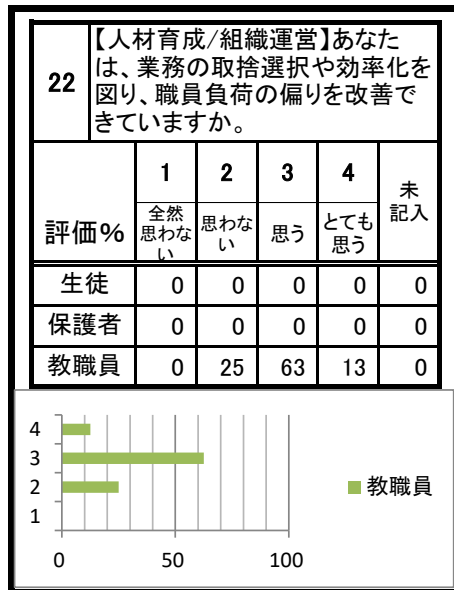
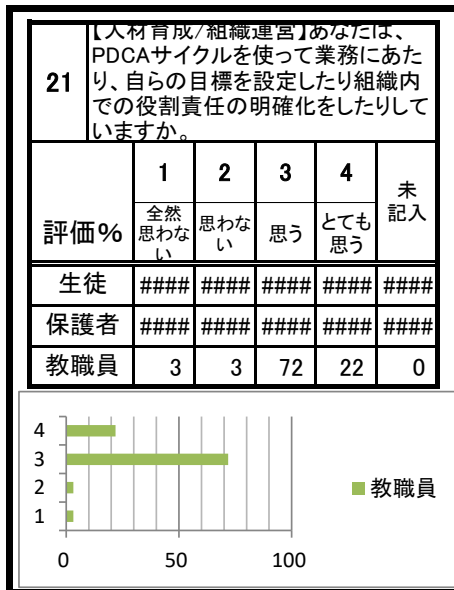
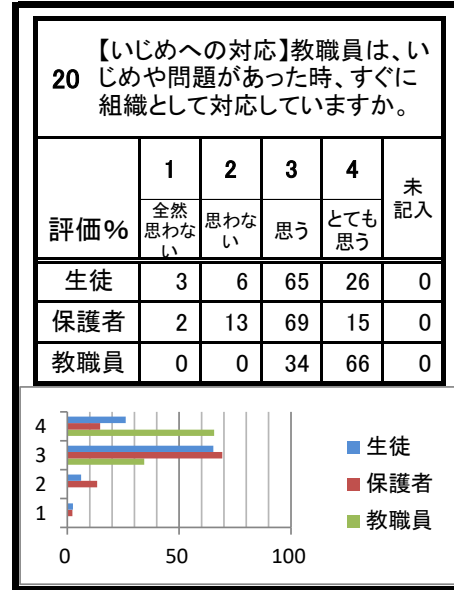
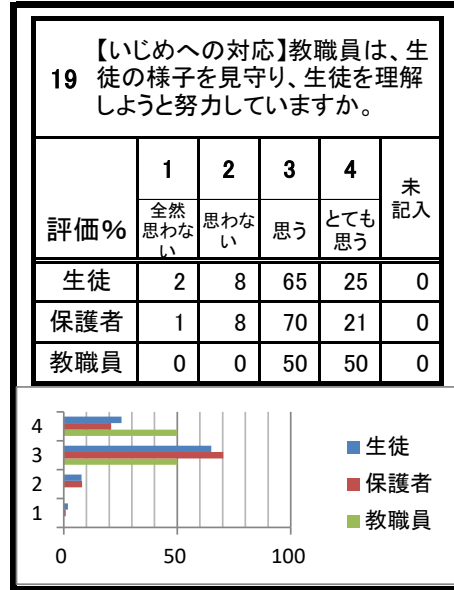
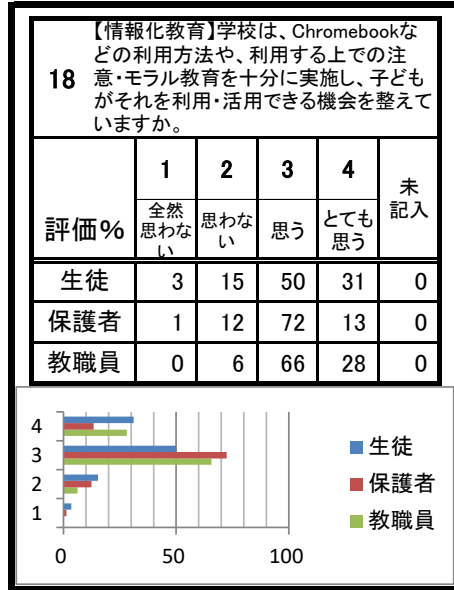
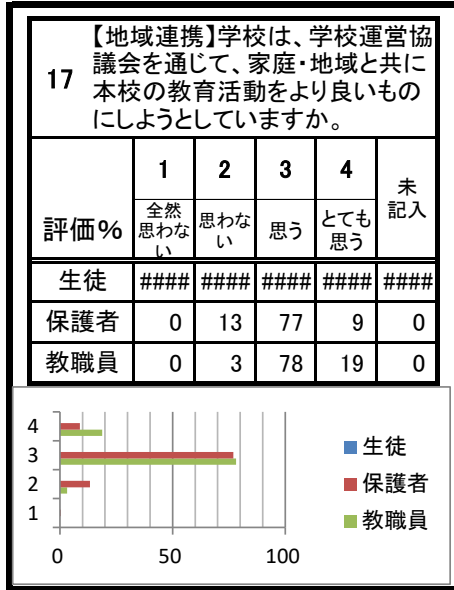
令和4年3月23日

教育課程委員会

No	評価項目	評価	具体的取組と評価
1	確かな学力	B	各教科に指導主事を招いて研修を開いたり校内授業研を行ったりして「基礎学力の定着」を目指した授業力向上を図った。教員は「わかる授業」「丁寧な授業づくり」に努めており、生徒も熱心に授業に参加している。しかし、生徒が主体的に学んでいるかという点で昨年同様の課題が継続している。今後も教科相談や朝学習など生徒が主体的に学ぶ場を設定し、学習の習慣化と意欲向上に努めたい。
2	豊かな心	A	全ての教育活動で学校教育目標を意識し、生徒の育成を図った。また、全職員がローテーションで道徳の授業を行う取組が定着している。全体的に高評価ではあるが、マナーや規則遵守の徹底についての評価は昨年から変わらない。一人ひとりを大切にしたい指導について、教職員では高評価が増えているが、生徒や保護者は「とてもそう思う」から「そう思う」へ評価が流れている点に着目したい。
3	健やかな体	B	感染症対策を徹底したうえで運動を伴う諸活動を実施してきたことから、教職員の評価は高い。一方で、生徒はコロナ禍の様々な不安から体を動かす機会が少なかったようだ。食育に関して教職員の意識は高まっているが、具体的な取組はなく、保護者からの評価も低い。昨年度も課題となっていたので、教科内指導や学校保健委員会の活用など具体的な取組を検討したい。
4	自分づくり教育	B	3年間を見通したキャリア教育を体系化し（職業講話・職業体験・進路指導の3本柱）実践を図った。教職員においてはイメージの共有化ができ、結果的に生徒からの評価も改善している。今後は保護者にも情報を発信し、「自分づくり教育」のイメージの共有化を図りたい。
5	特別支援教育	A	特別支援教室（Study ルーム）の環境を整備し、Chromebook や WEB 学習システム（デキタス）、非常勤職員の任用など、積極的に支援策を活用しながら運用の改善に取り組んだ。教職員の全評価が肯定的であることから、同じ意識を全体で共有していることがわかる。今後は整えた環境を生徒や保護者にどう伝えて活用していくかに、注力したい。
6	地域連携 学校運営協議会	B	「放課後学び場事業」と「学校運営協議会」は定期的には実施でき、評価も昨年同様であるが、対象が一部に留まってしまったので、積極的に活用したとは言いにくい。PTA との連携や情報発信（学校だよりや WEB サイト）には力を入れてきたが、保護者の要望は教職員が思っている以上に高い。次年度も取組を継続しつつ、工夫できる場所を探していきたい。
7	情報化教育	A	GIGA スクール構想の実施により、環境整備も教職員の意識改革も急速に前進した。情報モラル教育も実施しながら、授業で Chromebook を活用することが増え、学びの質の向上やオンライン配信授業にも対応している。教職員や保護者からの評価は高いが、生徒はもっと ICT の活用機会を求めていることがわかる。
8	いじめへの対応	B	今年度も、フロア巡回や毎月の振り返りアンケートなどで生徒の様子を把握し、いじめの未然防止に努めた。教職員の意識は高く、組織的に対応している。保護者からの評価も高いが、生徒の「とても思う」が減少傾向にあるので、生徒が安心して通える学校づくりのために、一層の努力が求められる。
9	人材育成 組織運営	B	「役割の明確化」や「業務の効率化」をねらった組織改編によって、働き方改革が進んでいると言える。「業務の取舍選択や効率化を図り、職員負荷の偏りを改善」について「全くそう思わない」という評価がなくなったことは大きい。否定的な評価が僅かに減少しているため、次年度もこの流れを継続したい。







回答数 生徒437人分 / 保護者225人分 / 教職員32人分